

(別紙5)

整理番号 2020P-119
補助事業名 2020年度子どもが幸せに暮らせる社会を創る活動補助事業
補助事業者名 一般財団法人リプレット基金事業財団

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

児童養護施設の子ども達にとって生活を豊かに感じられる「自転車」を寄贈することにより、共有で利用している自転車の利用頻度が増加し、子ども達の行動範囲が広がる。また、移動手段や自転車通学などの日常生活の利便性が向上することで、相対的に子どもたちの健やかな育成の助けとなる事を目的とする。

(2) 実施内容

児童養護施設への自転車寄贈事業 http://www.ripple-fnd.org/img/jka_rep.pdf
全国の児童養護施設16施設へ47台の自転車を届け、2011年度から2020年度で延べ745の児童養護施設へ1,503台の自転車を寄贈する事ができました。
応募要領発送の結果、今年度も多くの応募がありましたが、新型コロナウイルス感染拡大の為、不要不急の外出制限下の中での自転車の寄贈時期がずれ込み結果事業縮小となってしまいました。ただ、今年度も児童養護施設のご希望に添えるように調整し自転車を寄贈する事が出来ました。
5年目だった自転車教室は、施設関係者・選手会・自治体の安全等を第一に考え、自転車教室はコロナ収束まで見送りました。

2 予想される事業実施効果

2011年度から2020年度の累計で延べ745の児童養護施設へ1,503台の自転車を寄贈する事ができ、一昨年度は47都道府県の児童養護施設への自転車寄贈が完了していません。今年度で寄贈が1,500台を超え、2回目の自転車寄贈を行う施設もあったことで、スムーズに弊財団の活動をご理解いただけました。
また、買い替え需要を必要とされている施設に向けても、昨年度同様に希望する台数を配布することができました。
全都道府県を網羅しても贅沢品にあたる自転車は施設での買い替え優先度が低く、補助などでしか自転車を手に入れられないので来年度以降も入替需要等の見込みがあり、事業の継続は必要であると感じています。
そして本事業は、小学生のうちに自転車に乗る機会を向上させ、交通安全の意識図づけをすることにより、中学生に進学し通学等でより行動範囲の広がった際にも、自信をもって安全に利用することができ、日常生活の利便性が向上することで将来の選択肢を広げる一助となります。コロナ禍で密にならない移動手段として自転車

(別紙5)

は、社会人にも推奨されているのでこれを前面にアピールし、施設で暮らす子どもたちの一つの移動手段としてさらに多くの理解・認知・寄付の促進が今後も期待でき、継続を行ってまいります。

3 補助事業に係わる成果物

(1) 補助事業により作成したもの

リpletレポート2020 5,250部

<http://ripple-fnd.org/news/2021/02/post-135.html>



(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

オリジナルマスク 2,000枚

<http://ripple-fnd.org/news/2020/10/post-134.html>



(別紙5)

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 一般財団法人リプレット基金事業財団
(イッパンザイダンホウジン リプレットキキンジギョウザイダン)

住 所： 〒104-0061
東京都中央区銀座3-4-1 大倉別館5F

代 表 者： 理事長 川渕 孝一 (カワブチ コウイチ)

担 当 部 署： 事務局 (ジムキョク)

担 当 者 名： 参事 宮内 慎一 (ミヤウチ シンイチ)

電 話 番 号： 03-6459-4440

F A X： 03-5439-9430

E - m a i l： info@ripplelet-fnd.org

U R L： <http://www.ripplelet-fnd.org/>